大東中学校　校長通信 21

たかが掃除、されど掃除

先日発行されたほけんだよりにあったピカピカスペシャリストの笑顔がとてもまぶしく、掃除について考える機会を与えてもらいました。ありがとうございます。たかがトイレ掃除、されどトイレ掃除だと思いました。知る人ぞ知るではありませんが、鍵山秀三郎さんという掃除の達人がおられます。イエローハットの創業者であり、掃除の実践を通して、会社を成長させた取組は、多くの著書や報道で知られているところです。鍵山さんが日本を美しくする会を発足させて今年で 30 年になります。この取組に多くの経営者や学校関係者が影響を受けましたが、私もその一人です。直近の著書では、「トイレ掃除の奇跡～広島から暴走族が消え、荒れた学校が消えた～（鍵山秀三郎他共著、致知出版社)」がありますが、鍵山さんからの学びは私の教育理念のベースでもあります。

どのように汚れを落とすかという工夫が、そのまま仕事の気づきにつながると思います。足元のごみに気が付けず拾えない者は、学習のポイントにも気が付けず、大切なものを得ることができない。こんな話を生徒にもよくしたものでした。

以前、私が大東中に勤めたときは、今より学校が不安定な時期で、最後の４年間、生徒指導主事をさせてもらいました。それまでの学級担任の視点と経験を大切にするとともに、実証したいことがありました。それは、教室環境を整えると生徒の心も落ち着くということです。小さなことですが、自分で決めてやり通したことがありました。毎週週末にすべて普通教室のごみ箱を空にして、月曜日を迎えるということをずっと一人でやりました。同時に乱れている机やいすがあったら、きちんと整頓するということを心掛けました。たとえトラブルがあっても、翌朝にはきれいな教室で迎え入れたいという担任時代に行っていたことを週末限定で全学級でやりました。特段、誰かにほめてもらおうとか、誰かを巻き込もうと思ってやり始めたことではなかったのですが、数か月後にある先生に気づかれました。土曜日の部活動のあとに、生徒を帰らせた後にやっていましたが、時には部活終了後に急いで帰らなくてはいけない日もあります。そんなある日、陸上競技部の女子部員が「私らも手伝います」と言って、一緒に取り組みました。それが、自然と陸上競技部の週末のボランティア活動になっていき、自然と奉仕活動やグラウンド整備などもよくやるチームになっていきました。このチームが３年生になってからは、自分たちで陸上競技部通信（４か月で 25 号）を作り、自分たちでミーティングをやっていました。秋・春・夏の３期連続総合優勝をし、リレーで全国大会に出て、近畿総体も４種目入賞した年でした。大東の子どもたちはボランティア精神、人肌脱ぐ、そんな子どもが昔から多かったです。大切なことはいい空気、雰囲気を作ることだと思います。校風とでも言いましょうか。掃除を通してそれらは醸成できると思います。　　(2023.9.19)